

八雲病院20年8月廃止

国立機構が基本計画

【八雲】国立病院機構は6日、筋シストロフィーと重度心身障害を専門に扱う八雲病院（渡島管内八雲町）



2020年8月をめどに廃止される国立病院機構八雲病院

を2020年8月をめどに廃止し、系列の北海道医療センター（札幌市）と函館病院（函館市）に機能移転することを柱とした基本計画を発表した。八雲病院の入院患者約210人は、移転先で新設する専用病棟で受け入れる方針。

八雲病院の廃止は、入院患者の元を訪れる家族の多くが長距離移動を強いられるほかに、病棟の一部が老朽化したため。基本計画によると、北海道医療センターでは筋シストと重度心身障害を合わせた172床を、函館病院では重度心身障害の60床を整備し、専門的な医療に当たる。

八雲病院の約240人の職員らは、移転先などに配置転換する方針という。

教室などが併設され、同様に札幌市立山の手養護学校も同センターに機能移転して共同使用する。

北海道筋シストロフィー協会（札幌）などは、適切な医療を札幌で受けられれば患者や家族の利便性が高

八雲町の岩村克詔町長は「移転は残念だ。一方で八雲に残りたいという患者や家族、病院職員もいる。町として対応策を検討したい」と話す。

八雲病院の患者の大半は隣接する道立八雲養護学校で学んでおり、病院廃止に伴い、学校機能は北海道医療センターと函館病院へ移る。専用病棟内に特別支援

まるとして、病院機能の移転に前向きだった。八雲病院と養護学校の機能移転についても、診療と教育が同じ病棟内で受けられるとして、好意的に受け止める患者や生徒の家族は多い。転院に当たっては、寝た

きりや人工呼吸器を付けた患者を搬送する際に慎重な対応が求められる。同機構運営改善対策室は「入院患者の安全・安心を第一に、転院計画を検討したい」としている。

（古田佳之）